

地域とともに。
みどりの銀行のイーハトーヴ宣言!

地域のみなさまの心の中には、それぞれ思い描く「理想のいわて・東北」があると思います。私たちは、現実の「岩手・東北」のなかでその理想が少しでも形を成すことができるよう行動していきたいと考えています。コーポレートカラーが「みどり」の岩手銀行が掲げた「みどりの銀行のイーハトーヴ宣言」には、そうした決意が込められています。

今後も、地域のみなさまとの積極的なコミュニケーションを通じて地域社会の永続的発展に貢献し、地域のみなさまが思い描く「理想のいわて・東北」が現実のものとなるよう日々努力してまいりますので、一層のご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

2018年12月発行
株式会社 岩手銀行 総合企画部 広報CSR室
〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号
TEL 019-623-1111 (代表)
<https://www.iwatebank.co.jp/>



ご自由にお持ち帰りください

いわぎん レポート

岩手銀行中間期ディスクロージャー誌
(情報編)

2018

The Bank of Iwate, Ltd.
Report 2018

〔地方創生〕
大通支店 × いわぎん事業
〔事業性理解〕 創造キャピタル × 学校法人
千厩支店 × 株式会社 門崎 龍澤学館



岩手銀行イメージキャラクター のんさん

岩手銀行
The Bank of Iwate, Ltd.



平素より、岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

この度、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「いわぎんレポート」を作成いたしました。本誌では、地域社会の活性化に向けた当行の取組みや現況などをよりわかりやすくご紹介しております。ご高覧のうえ、当行をさらにご理解いただければ幸いに存じます。

さて、日本経済は、海外経済が米国のマクロ政策運営や保護主義的な動きとその影響、それらも含めた新興国・資源国経済の動向などのリスク要因を抱えながらも、総じてみれば着実な成長を続けるもとの、外需やオリンピック関連需要などにも支えられ、緩やかな拡大を続けるとみられています。

一方、当行の主要な営業基盤である岩手県においては、東日本大震災から7年半が経過しましたが、災害公営住宅の整備、復興道路の延伸などハード面の復旧・復興は順調に推移してきているものの、被災地域では、販路が戻らず、売上高が震災前の水準に戻らない事業者が見受けられるなど、復旧・復興にはバラツキもあります。また、復興需要に伴う公共事業はピークアウトを迎えており、中長期的には、地域が従来から抱えていた少子高齢化・人口減少などの問題が進行し、マーケットが縮小していくことが懸念されています。

こうした状況下において、地域を主要な営業基盤とする当行の果たすべき役割は、ますます重要となってくると認識しており、「地域社会の発展に貢献する」「健全経営に徹する」という2つの経営理念をあらためて強く意識しているところです。

当行では2016年4月にスタートさせた中期経営計画の中で「逆境を克服するため、イノベーションに挑戦し、地域とともに勝ち残る」をテーマとして掲げています。これまでの常識に囚われない新たな発想や方法でイノベーションを起こし、様々な課題に立ち向かっていくことで逆境を乗り越え、これまでの感謝の思いを胸に、これからも地域とともに歩む銀行でありたいと考えております。

今後とも地域のみなさまから信頼され選ばれる銀行となるため、役職員一同全力を尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

代表取締役頭取

田口幸雄

目次 contents

頭取メッセージ	1
地方創生	2
事業性理解	4
CSRインフォ	6
仕事と子育ての両立支援	7
業績トピックス	8

銀行法施行規則等で規定された開示項目は、後日発行いたします
「いわぎんレポート2018(資料編)」をご参照ください。

人財育成で連携しています。

地域を支えていくために

地方創生
地域を
元気にしたい

大通支店×いわぎん事業創造キャピタル×学校法人龍澤学館



学校法人龍澤学館
理事・法人代表
龍澤 尚孝さん

いわぎんさんは地域に密着し、地域経済を支えています。海外との連携も含め、私どもができることは惜しみなく提供し、地域が成り立っていくようにお互いに切磋琢磨していきたいと考えています。



岩手銀行大通支店
融資・渉外オフィス
山田 賢太

地域を支える、地域を持続させる、という共通のテーマに向けて、営業店と本部、またグループ会社が一体となって、お客さまの課題の解決に取り組んでいきます。

学校法人龍澤学館は、中学校・高等学校、専門学校、大学受験予備校などの学校運営を行う、岩手を代表する学校法人。地元プロバスケットボールチーム岩手ビッグブルズの株主としてスポーツを通じた地方創生事業も支援しています。岩手銀行とは、大通支店を窓口として長いお付き合いがあります。そして2015年4月には、共同でベンチャーキャピタル会社(VC)を設立。通常の銀行取引だけではない関係がスタートしました。

設立したVCは「いわぎん事業創造キャピタル株式会社」。同社は、岩手県に関連のあるベンチャー企業の育成に力を入れているほか、今年8月には、龍澤学館グループの国際情報ビジネス協同組合と当行で「連携に関する覚書」を締結。外国人実習生の受け入れを検討する地元企業の支援を強化するなど、地域のお客さまへの多様なサービスを展開しています。

こうした連携について龍澤学館法人代表の龍澤尚孝さんは、「震災後に元気をなくした岩手を元気にしたい。また、学生たちが卒業後、岩手で働ける環境づくりをすることで、人材流出という課題も解決したい。そのためには、産学、そして金融の連携が重要だと考えました」と話します。活躍できる人材を育成し、その人材が岩手で就職したり、起業したりできる環境を整えることが、地域経済を支えていく……。それが、龍澤本部長が考える「地産地消の人間版」です。

「龍澤学館様は、長く地域の教育を支え、多大な貢献をされてきたと認識しています。私が本部長にお会いする機会はそう多くありませんが、お訪ねする

ビジネスマッチングで 海外出店を後押し 【株式会社柳家】

いわぎんレポート2016(情報編)でも紹介した盛岡市の人気ラーメン店「柳家」が初の海外出店を決めたのも、当行からのビジネスマッチングがきっかけ。大通支店が柳家の大信田社長に龍澤本部長を紹介し、龍澤本部長が大信田社長のチャレンジを強く後押ししました。その後、柳家は2016年にベトナム・ハノイに初出店。その際も、龍澤学館が運営する専門学校のベトナム人卒業生が現地での出店をサポートしました。



2018年8月、龍澤学館グループの国際情報ビジネス協同組合と、外国人技能実習生の受入を検討する企業等への情報提供・支援を目的として「連携に関する覚書」を締結。

際には、常に新しい情報をお持ちすることを心がけています」と話す大通支店の山田賢太行員。その言葉に「当学館と大通支店さんによるプロジェクトができれば素晴らしいですね」と応える龍澤本部長。得意分野を活かしながら、地域を支えたいという想いは同じです。また、龍澤本部長は、「金融教育などでも、いわぎんさんと連携できれば、人生の早い段階からマネー教育をすることも大切ですから」と、さらなる連携に期待を寄せます。

地域の持続的な発展のためという共通のテーマを持つ龍澤学館と当行。岩手に人が集まり、新たな企業が生まれ、そして日本のみならず世界へと羽ばたいていく日を目指し、これからも新たな取組みにチャレンジしていきます。



息の長い循環を

いわぎん事業創造キャピタル株式会社
経営戦略室シニアマネジャー
猪俣 広志

「いわぎん事業創造キャピタル」は、岩手銀行が龍澤学館様などと一緒に設立した、ベンチャー企業等へ投資を行う会社です。学校と銀行がベンチャーキャピタルを立ち上げるのは全国初の試みでした。共同事業ということもあり、龍澤本部長とは課題を共有するなど、話し合う機会も少なくありません。高校や専門学校における人材育成は、やがて地域における起業や県内企業の海外進出など、地元経済の力を伸ばす可能性を広げます。当社や岩手銀行は創業支援という立場で繋がり、サポートしていく。そのような息の長い循環をつくっていく必要があると考えています。

事業性
理解

企業のことを
もっと知りたい

千厩支店×株式会社 門崎

「肉」で岩手を世界へ発信。
その想いを後押しします。



撮影場所：格之進肉学校 本校



株式会社 門崎
代表取締役
千葉 祐士さん



岩手銀行千厩支店
支店長
上平 泰之

「一関と東京を、食で繋ぐ」をテーマに、「格之進」というブランド名を冠した門崎焼成肉を提供するレストランの経営や牛肉販売、食肉加工などを手がける株式会社門崎。16店舗あるレストランのうち12店は六本木を中心にお台場など、東京での展開です。

代表取締役の千葉祐士さんは「肉を媒体として人と繋がり、この地を肉の聖地にして、ここから首都圏や世界に発信したい」と話します。

そのプランを実現するため、2013年に閉校した母校の門崎小学校を再利用。本社となる「格之進肉学校」を誕生させました。そして2018年4月、体育館を改修して、ハンバーグを製造する新工場を開設しました。

学校をプラットフォームに、肉の魅力で都会の人たちを岩手に招き入れて生産者と繋ぎ、農業や食を支えるのが自身の役割だという千葉

社長。「食はアトラクション」と捉えて農業や地域の未来をデザインしようという姿勢に、岩手銀行千厩支店の上平泰之支店長は、「千葉社長の事業は、徐々にその成果が上がってきています。県内企業を牽引するモデルとなるものです」と期待を寄せます。

岩手銀行がメインバンクという千葉社長。「いわぎんさんとの関係は、社会的信用を示すものだと考えます。当社に対して、かなり期待値を込めてお付き合いいただいていると感じています」という言葉に、「将来を見据える社長の目、スピード感のある仕事ぶりは、私たちも学ぶところが大きいです」と上平支店長は応えます。

フィールドが違っても、地域を豊かにしたいという願いは同じ。地域を見つめて価値を再発見し、東京へ、世界へと発信を。そのような企業を岩手銀行は後押ししていきます。



岩手銀行法人戦略部
ソリューション営業グループ副部長
高橋 庄平
岩手銀行法人戦略部
営業推進役
及川 弘晃

門崎様は、当行からの申請による「県産素材を活用した新規畜肉加工品の開発」をテーマとした事業計画が、2014年度の「リエゾン-1 研究開発事業化育成資金」贈呈先として選定されました。

また、門崎様には自社が自信を持って提供するお肉をPRする場として、当行が主催する商談会に参加いただき、全国のバイヤー様に「格之進」というブランドをPRさせていただきました。

千葉社長の「格之進のお客様が、岩手の農産物を食べることで岩手県の農業を支える」との強い想いが実現できるよう、引き続き当行全体でサポートしていきます。

丑舎 格之進

格之進の総本店として2004年7月にオープン。丑舎の名の通り、門崎焼成肉の焼肉やステーキから、ハンバーグやメンチカツなどの定食ものを提供。寒期のすき焼き、しゃぶしゃぶといった、お肉を様々な角度から愉しめるお店です。



格之進肉学校 六本木分校

2017年11月29日（イイニク）の日オープンした格之進肉学校六本木分校。格之進R+（洋風焼肉）、格之進Q（肉割烹）、格之進B（精肉販売）の3業態で構成され、食べて、学べて、交流して、発信するを一つの場所で堪能できる店舗です。



門崎焼成肉 塊焼き

格之進の「塊焼き」は、重メニューとして密かにお客様にご提供していたのが始まりです。お肉の中心部に肉汁を閉じ込み、旨みを逃さずに焼き上げることができる「塊焼き」は、門崎焼成肉の旨みをダイレクトにお客様へ伝えられる格之進お馴染みの名物コースとなっています。



ライブパフォーマンス

お肉を熟知したスタッフがお客様の目の前で焼肉を焼き、最高の焼き上がり状態でカットするライブパフォーマンス。格之進を代表する塊焼きコースの面白みの一つとなっています。

いわぎんの自然保護活動

2018年11月13日



岩手銀行は、CSR（企業の社会的責任）活動の重点キーワードのひとつに「豊かなしぜん」を掲げて、コーポレートカラーである「みどり」に注目し、自然保護活動に取り組んでいます。2017年9月には、漆の生産量日本一を誇る岩手県二戸市と「漆の林づくりパートナー協定」を締結し、パートナー企業として漆の植栽や保全管理などの漆林づくりをスタートさせました。

そして今年も昨年に引き続き、11月13日「漆の日」に二戸市立浄法寺中学校の2年生24人と一緒に漆の苗木50本を植栽する自然保護活動を実施しました。また、植栽に参加した生徒を対象として当行行員を講師とした金融出前授業も開催しました。



自然保護活動には、浄法寺中学校の生徒のほか、当行からのボランティアも含め総勢50人が参加。



大きくなるあれ〜



漆の採取まで約15年かかります

地元漆生産組合の指導のもと、漆の苗木50本を丁寧に植えました。

金融出前授業 in 浄法寺中学校

午後には金融出前授業を開催。「お金」や「自然保護」の大切さについて考える時間としました。



仕事と子育ての両立支援

仕事 子育て

事業所内保育所 がんちゃんすくすく保育園

岩手銀行は今年3月、岩手大学と共同で運営する事業所内保育所（愛称：がんちゃんすくすく保育園）を同大学の構内に開園。国立大学と民間企業が国の企業主導型保育事業を活用して開設する事業所内保育所としては、全国初の試みとなりました。

松園支店の押切翔行員は6月から、同保育園に長女を預けています。押切行員は「普段の送り迎えは、主に妻が担当していますが、父親として保護者懇談会や運動会などには積極的に参加します。妻の「働きたい」という希望を叶えるとともに、お互いに安心して仕事ができる環境が確保できて良かったと思っています」と話します。

岩手銀行は、このような仕事と子育ての両立支援を通じて男女ともに働きやすい職場づくりを目指しています。また、女性がライフイベントのなかで、仕事を続けることができる環境づくりを先導し、女性の活躍を後押ししています。



岩手銀行松園支店 融資担当 押切 翔

がんちゃんすくすく保育園は定員12名と少人数で、アットホームな雰囲気です。妻にまかせずに、私も家事や育児に参加しています。



（左写真）窓口で融資についての相談を受ける押切行員。（右写真）「イクボス」高橋信明支店長（左）も行員の仕事と子育ての両立を応援します。



この日は夫婦揃ってお迎えに行きました。



がんちゃんすくすく保育園の利用対象者は、岩手大学教職員や学生、岩手銀行の役職員です。岩手大学の利用者の方とも子育ての悩みを共有するなど、交流できるのも嬉しいですね」と押切行員は話します。

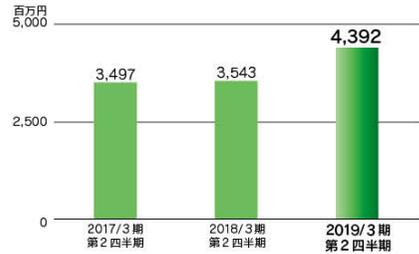
業績トピックス

●諸計数は原則として単位未満を切り捨てております。●構成比は100に調整しております。

主要な指標の推移

コア業務純益

コア業務純益は、資金利益や役員取引等利益が増加したほか、経費が減少したことなどから、前年同期比8億円増益の43億円となりました。



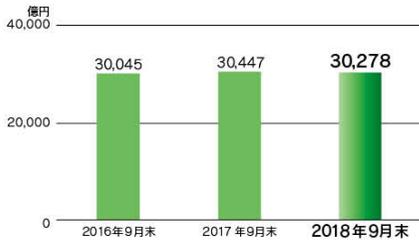
中間純利益

中間純利益は、資金利益や役員取引等利益が増加したものの、与信費用が増加したことなどから、前年同期並みの27億円となりました。



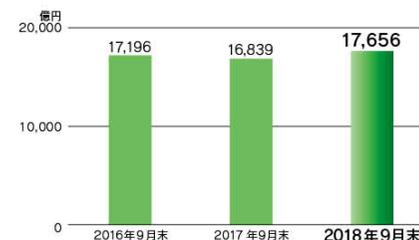
預金等残高

個人預金や法人預金は増加したものの、公金預金が減少したことなどから、前年同期比169億円減少し、期末残高は3兆278億円となりました。



貸出金残高

法人向け貸出や個人向け貸出が増加したことなどにより、前年同期比817億円増加し、期末残高は1兆7,656億円となりました。



預り資産残高

保険の増加などにより前年同期比119億円増加し、期末残高は3,279億円となりました。



※保険は、有効契約残高を記載しております。

用語のご説明

〈自己資本比率〉

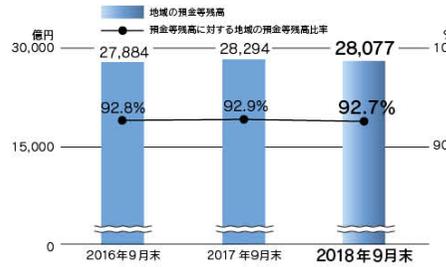
信用の程度に応じてウェイト付けた資産および事務事故、システム障害等で損失が発生する可能性のある金額の合計(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権処理等に対する備えが充実していることを示し、当行のような国内支店のみの銀行は4%以上の水準を維持する必要があります。

「地域」の定義

当行にとっての「地域」とは、当行の主要な営業基盤である「岩手県」を指しています。なお、県内向け預貸金等各種記載数につきましては、岩手県内各店舗の合計数値としています。

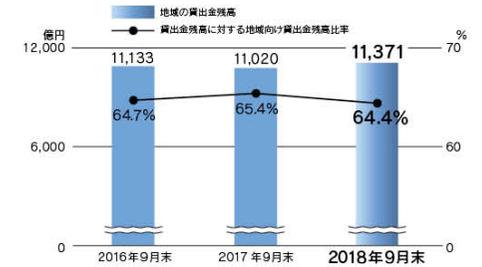
地域の預金等残高の推移

2018年9月末の地域の預金等残高は2兆8,077億円で、預金等全体の9割以上を地域のお客さまからお預かりしています。

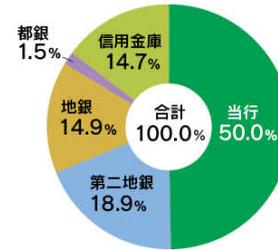


地域向け貸出金残高の推移

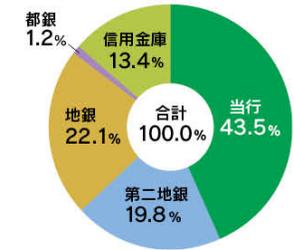
2018年9月末の地域向け貸出金残高は1兆1,371億円で、総貸出金に占める割合は64.4%となっています。



県内預金等シェア 2018年3月中平均残高ベース



県内貸出金シェア 2018年3月中平均残高ベース



岩手県内における当行の預金等・貸出金シェアは、県内の地銀、第二地銀、都銀、信用金庫のなかでトップとなっています。
(注)県内シェアは、国内銀行(ゆうちょ銀行を除く)および信用金庫による割合です。

自己資本比率

自己資本比率は2014年3月期より新基準(バーゼルⅢ)で算出しております。2018年9月末の単体自己資本比率は、11.88%となり、引き続き高い水準を維持しております。



格付け

「格付け」とは、企業の債務履行能力を第三者である格付機関が客観的に評価し、その結果を簡単な記号で表したものです。当行は国内の格付機関から「格付け」を取得していますが、安全性について高く評価されています。

A (株)格付投資情報センター